内、○中略　余參御所、但見參不謁女房、御不豫事猶以不快、然而明日行幸、必可然之由叡慮一決了、萬人可延引之由雖計奏、更以無御承引云々、及亥刻退出了、　廿一日癸卯、此日有讓位事、

〔閑窓自語〕靈元院疫癘和歌事

享保八年病はやりて、人民多くうせぬ、靈元院の御うたあり、

風ふかば本來空のそらにふけ人にあたりてなんの疫癘

此御製を都鄙き、つたへて、かき玄るし、まもりとせしに、やめるものはやく治し、やまざるものは大かたにのがれけりとぞ

〔一話一言十三〕風病流行

大久保酉山翁考風病流行之事

享保十八年癸丑六月七月七月十二日、長髪并供廻り格別減少にも可相勤旨被仰渡候

十五年目

延享四年丁卯九月十月九月廿九日右同断被仰渡候

廿六年目

明和六年己丑十月十月四日右同断被仰渡候

廿七年目

寛政七年乙卯三月四月三月廿八日右同断被仰渡候

八年目

享保二年壬戌春

〔一話一言四十〕享保十八丑年六月十七日廻狀

一丑七月十日前後より、江戸町中、其後國々在々迄風邪はやり、同十八十九日比、風神送り、夥敷に